

学 生 近 況 報 告

－6年次の近況報告－

沖縄で過ごせて良かったです

山 岸 惇 史 (6年次)

琉球大学医学部医学科同窓会員の皆様、ならびに保護者の皆様、そしてこの同窓会誌「南風」をご覧の全ての皆様、はじめまして。医学科6年次の山岸惇史と申します。

本来は、このような場で筆を取らせていただくほどの者ではないのですが、読んでいただくと幸いです。

現在6年次は、学外・学内でのクリニカルクラクシップに日々励んでおります。今年から実習形態が変更になり、実習期間が9月まで延長され、学外での実習も前年度に比べて格段に多くなりました。また、講座毎の卒業試験が廃止され、その代わりに国家試験に近い形を取った「総合試験」というものが5、6年次の間に計3回行われるようになりました。このような意味でも、私達28期生は大幅な改革の過渡期の学年といえると思います。そのため色々と勝手が違い、混乱することも多かったですが、改革に痛みは付き物と言いますか、仕方が無かったのかと思います。結果的に長い目で見たときに、国家試験の合格率が上がればいいなと思う次第です。

さて、自分が所属しているバドミントン部の事を少し書かせていただきたいと思います。先日行われた九山では、今年は沖縄が主な開催地で、自分たちバド部もその例外ではなく、下級生を中心に運営に尽力してくれました。一方自分たち上級生は、その分試合に集中することが出来て、全力を出し切れた人が多かったように思います。自分は大学からバドを始めたのですが、最後の九山で初めて団体戦のレギュラーメンバーとして出場することが出来ました。といっても、各大学の精鋭たちが出場してくる団体戦ではなかなか勝利することが出来ませんでした。そして、回ってきた決勝トーナメント出場（上位4大学のみ）をかけた大一番の試合は、絶対に負けられない戦いでした。無我夢中で全力を出し切り、フルセットの末、何とか勝利しました。その後、頼りになる後輩たちが勝利してくれ、男子団体は約10年ぶりの決勝トーナメント出場を果たすことが出来ました。ちなみに女子は強く、準優勝でした。このような経験をさせていただけたことは、自分の一生の財産になりました。本当にバド部には感謝してもしきれません。

最後に、少し自分の6年間を振り返らせていただきたいと思います。自分は石川県出身ということもあり、沖縄に来るにあたって全く知り合いも

